

株 主 各 位

兵庫県尼崎市中浜町19番地
日亜鋼業株式会社
代表取締役社長 大西利典

第71回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第71回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の以下のウェブサイト
「第71回定時株主総会招集ご通知」として電子提供措置事項を掲載しております。

当社ウェブサイト <https://www.nichiasteel.co.jp>

電子提供措置事項は、東京証券取引所（東証）のウェブサイトにも掲載しておりますので、以下の東証ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）にアクセスして、銘柄名（日亜鋼業）又は証券コード（5658）を入力・検索し、「基本情報」、「縦覧書類／PR情報」を選択の上、ご確認下さいますようお願い申し上げます。

東証ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

なお、当日ご出席されない場合は、書面により議決権を行使することができますので、お手数ながら電子提供措置事項に掲載の株主総会参考書類をご検討の上、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2023年6月28日（水曜日）午後5時20分までに到着するよう折り返しご送付下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

- 日 時 2023年6月29日（木曜日）午前10時
- 場 所 兵庫県尼崎市中浜町19番地
日亜鋼業株式会社 本社大ホール（後記会場ご案内図ご参照）
- 目的事項
報告事項
 - 第71期 {2022年4月1日から
2023年3月31日まで} 事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 - 第71期 {2022年4月1日から
2023年3月31日まで} 計算書類報告の件
- 決議事項
 - 第1号議案 剰余金処分の件
 - 第2号議案 取締役9名選任の件
 - 第3号議案 補欠監査役1名選任の件

4. 招集にあたっての決定事項

代理人により議決権を行使される場合は、議決権を有する他の株主の方1名を代理人として株主総会にご出席いただくことが可能です。ただし、代理権を証明する書面のご提出が必要となりますのでご了承下さい。

議決権行使書面において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。

以 上

-
- ◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出下さいますようお願い申し上げます。
 - ◎電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトにて修正内容を掲載させていただきます。
 - ◎なお、株主様の公平性を勘案し、お土産の配布を取り止めさせていただいております。何卒ご理解下さいますようお願い申し上げます。

事業報告

2022年4月1日から
2023年3月31日まで

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、地政学的リスク影響等による輸入資源・原材料等の高騰、国内外におけるサプライチェーン寸断、中国の不動産投資減退等による景気減速、欧米の利上げに伴う景気後退リスク等の複合的な要因が相俟って、先行きが不透明な状況が継続しました。

線材加工製品業界においては、普通線材製品のフェンス向けや土木向け等で需要低迷が続きました。特殊線材製品では電力通信向けで前年度の特需が剥落するとともに、国内完成車生産の回復遅れ等により自動車向けの需要が減少しました。鋳螺線材製品については、中小物件が停滞する一方で、大型物件を中心に比較的需要が堅調に推移しました。

また、コスト面では、主副原料及びエネルギー等の価格が大幅に上昇し、これらの調達コスト増を製品価格に適切に転嫁することが収益を確保する上で不可欠となりました。

このような状況の中、当社グループは、主副原料及びエネルギー等のコスト上昇を踏まえた販価への転嫁、鋳螺線材製品の販売数量拡大、変動費・固定費両面でのコスト低減対策等を積極的に推進しました。

その結果、当連結会計年度の売上高は34,075百万円と前期に比べ3,354百万円（10.9%）の増収となりました。

利益面においては、普通線材製品及び特殊線材製品の販売数量の大幅な減少等により、営業利益は1,822百万円と前期に比べ190百万円（△9.5%）の減益、経常利益は2,289百万円と前期に比べ331百万円（△12.6%）の減益、親会社株主に帰属する当期純利益は1,332百万円と前期に比べ382百万円（△22.3%）の減益となりました。

なお、取扱製品部門別の状況は次のとおりであります。

普通線材製品部門

当部門は、普通線材を素材とした各種めっき鉄線、また、めっき鉄線を素線とした加工製品からなり、公共土木向けのかご、落石防護網及び民間向けの各種フェンス等に使用されております。

売上高は、フェンス向けや土木向け等で販売数量が減少した一方で、主副原料及びエネルギー等のコスト上昇を踏まえた販価改善により、9,381百万円と前期に比べ550百万円（6.2%）の増収となりました。

営業利益は、上記コスト上昇、販売数量減少及び在庫評価差等の減益要因が、販価改善及びコスト低減等の増益要因を上回ったことにより、251百万円と前期に比べ610百万円（△70.9%）の減益となりました。

特殊線材製品部門

当部門は、特殊線材を素材とした硬鋼線、各種めっき鋼線、鋼平線、鋼より線、ワイヤロープ等からなり、自動車向け、電力通信向け及び公共土木向け等、多岐に渡って使用されております。

売上高は、電力通信向け等で販売数量が減少した一方で、主副原料及びエネルギー等のコスト上昇を踏まえた販価改善により、17,132百万円と前期に比べ1,851百万円（12.1%）の増収となりました。

営業利益は、販価改善及びコスト低減等の増益要因が、上記コスト上昇及び販売数量減少等の減益要因を上回ったことにより、517百万円と前期に比べ313百万円（153.1%）の増益となりました。

鉚螺線材製品部門

当部門は、鉚螺線材を素材としたトルシア形高力ボルト、六角高力ボルト及びGNボルト等からなり、主として建築向けに使用されております。

売上高は、販売数量の拡大並びに主副原料及びエネルギー等のコスト上昇を踏まえた販価改善により、6,833百万円と前期に比べ1,013百万円（17.4%）の増収となりました。

営業利益は、販売数量の拡大、販価改善及びコスト低減等の増益要因が、上記コスト上昇等の減益要因を上回ったことにより、952百万円と前期に比べ124百万円（15.0%）の増益となりました。

(2) 設備投資等の状況

当連結会計年度中において実施いたしました設備投資等の総額は1,060百万円であり、その主なものは、次のとおりであります。

① 当連結会計年度に完成した主要設備

当	社	茨城工場 鋳螺線材表面処理設備 本社工場 倉庫建屋改修 茨城工場 ボルトフォーマーオーバーホール システム (サーバー・ソフト) 更新
ジェイ・ワイテックス株式会社		より線機部分更新

② 当連結会計年度において継続中の主要設備の新設、拡充

ジェイ・ワイテックス株式会社		ストランダー製造能力向上 太径用伸線機
----------------	--	------------------------

(3) 資金調達の状況

該当事項はありません。

(4) 対処すべき課題

わが国経済は緩やかに回復しながらも、地政学的リスク、中国や欧米の景気動向、国内外のサプライチェーン寸断、為替相場等の要因により、依然として先行きが不透明な状況が続く見通しにあります。

線材加工製品業界においては、普通線材製品は、フェンス向けでコロナ禍影響等により極端に落ち込んだ水準からの需要の戻りが期待され、土木向けでも災害復旧需要等が見込まれるものの、両分野とも大幅な好転は望み難い状況にあります。特殊線材製品は、自動車向けでサプライチェーン寸断影響の緩和次第で一定の回復が想定されるものの、同影響が長引く懸念もあります。鋳螺線材製品は、大型物件が堅調に推移しているものの、中小物件の停滞が継続しており、本格的な回復は23年度下期以降となる見通しです。

一方で、22年度までに大幅に上昇した主副原料及びエネルギー等の価格が高止まりしており、コスト面ではさらに厳しさを増している状況にあります。

当社グループとしては、こうした経営環境や鉄鋼市場の変化に的確に対応し、一層強靱な企業体質を構築していくために、諸コストの上昇を踏まえた販価転嫁の完遂をはじめ、市場競争力の強化、シェアの拡大、需要の開拓、品種構成の改善、諸コストの低減、国内外の子会社・関連会社の経営基盤強化等を図り、収益の確保・拡大と持続的な成長に努めてまいります。

当社は、めっき・成形加工の高度な技術と商品開発力に支えられたナンバーワン・オンリーワン商品をはじめとする高付加価値の多彩な商品群を有してい

ます。こうした差別化商品と東西製造拠点からの短納期デリバリーを武器に、製販技一体で需要家へのソリューション営業を展開し、既存市場での拡販と新規市場の開拓を推進してまいります。当社は、従来より養殖金網や製紙向け等の用途開拓に加え、補強土壁『ハイパープレメッシュ』の需要家との共同開発など、数々の需要開拓を推し進めてまいりました。今後とも社会のニーズを踏まえた戦略的な商品を積極的に市場に投入し、公共事業を含めた一定の需要が期待できる建設向け、リピート性の高い製造業向け、他素材の代替を含めた農業・水産業向け等を中心に拡販を展開してまいります。また、事業や業容の拡大を図っていく中で、必要に応じて資本提携等も行っております。さらに、海外の成長を取り込むべくグローバルな事業展開を行っており、中国とタイの拠点から世界各地域への輸出を推進しています。

当社は、ESGやSDGsを踏まえ、「めっき技術で社会に貢献する」をキーワードに、耐食性の高い環境にやさしい商品の提供（エコプロダクト）、お客様や社会のニーズに応えるソリューションの提案（エコソリューション）、省エネやCO2排出量削減等に資する製造プロセスの構築（エコプロセス）の「三つのエコ」を通じて、持続可能な社会の実現に向けて積極的に貢献しています。加えて、社会貢献活動の一環として、森林資源の整備にも取り組んでいます。さらに、ガバナンスの面では、内部統制の充実及びコンプライアンスの徹底を図っています。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

(5) 財産及び損益の状況の推移

① 企業集団の財産及び損益の状況の推移

区 分	2019年度 第68期	2020年度 第69期	2021年度 第70期	2022年度 第71期(当期)
売上高(百万円)	30,939	27,816	30,720	34,075
経常利益(百万円)	2,033	1,921	2,620	2,289
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	384	1,333	1,715	1,332
1株当たり当期純利益 (円)	7.94	27.56	35.45	27.54
総資産(百万円)	64,529	65,238	69,225	70,633
純資産(百万円)	45,981	48,101	49,659	51,619

② 当社の財産及び損益の状況の推移

区 分	2019年度 第68期	2020年度 第69期	2021年度 第70期	2022年度 第71期(当期)
売上高(百万円)	17,848	15,871	17,443	19,087
経常利益(百万円)	2,027	1,599	2,217	1,670
当期純利益(百万円)	344	1,129	1,596	1,057
1株当たり当期純利益 (円)	7.11	23.34	33.00	21.85
総資産(百万円)	47,186	48,545	51,641	52,048
純資産(百万円)	38,841	40,703	42,010	43,326

(6) 重要な親会社及び子会社の状況

- ① 重要な親会社との関係
該当事項はありません。
- ② 重要な子会社の状況

会社名	資本金 (百万円)	当社の出資比率 (%)	主な事業内容
ジェイ-ワイテックス株式会社	450	55	金属製品製造業
滋賀ボルト株式会社	200	100	金属製品製造業
太陽メッキ株式会社	50	100	金属製品加工業
烟台基威特鋼線製品有限公司	43,851 (千元)	55	金属製品製造業

③ 主要な関係会社

日本製鉄株式会社は当社の関係会社であります。当社は商社を通じ同社より原材料を購入しております。

(7) 主要な事業内容

事業	主要製品
普通線材製品部門	鉄線、亜鉛めっき鉄線、極厚亜鉛めっき鉄線、亜鉛・アルミ合金めっき鉄線、亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっき鉄線、ニューサンカラーワイヤー、日亜フェンス、有刺鉄線、ルーピングワイヤー、普通線材製品加工品、硬鋼線材製品加工品
特殊線材製品部門	硬鋼線、ピアノ線、亜鉛めっき鋼線、亜鉛・アルミ合金めっき鋼線、鋼より線、鋼平線、合金めっき鉄平線、巻付グリップ、ワイヤロープ、亜鉛めっきワイヤロープ
鉚螺線材製品部門	トルシア形高力ボルト、六角高力ボルト、GNボルト

(8) 主要な営業所及び工場

- ① 当社本社 兵庫県尼崎市
- ② 当社支店 東京支店（東京都中央区）
- ③ 当社営業所 北海道営業所（北海道札幌市）、東北営業所（宮城県仙台市）、名古屋営業所（愛知県名古屋市）、新潟営業所（新潟県新潟市）、広島営業所（広島県広島市）、九州営業所（福岡県福岡市）
- ④ 当社工場 本社工場（兵庫県尼崎市）、茨城工場（茨城県北茨城市）
- ⑤ 重要な子会社の本社
 - ジェイ-ワイテックス株式会社 大阪府貝塚市
 - 滋賀ボルト株式会社 滋賀県甲賀市
 - 太陽メッキ株式会社 兵庫県尼崎市
 - 烟台基威特鋼線製品有限公司 中華人民共和国

(9) 従業員の状況

① 企業集団の従業員の状況

区 分	従業員数	前期末比増減
男 性	713名	1名増
女 性	110名	1名増
合 計	823名	2名増

(注) 従業員数は、当連結会社から当連結会社外への出向者を除き、当連結会社外から当連結会社への出向者を含む就業人員であります。

② 当社の従業員の状況

区 分	従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男 性	290名	3名増	42歳11ヶ月	19年7ヶ月
女 性	39名	2名増	39歳11ヶ月	11年10ヶ月
合 計	329名	5名増	42歳8ヶ月	18年10ヶ月

(注) 従業員数は、当社から他社への出向者を除く就業人員であります。

(10) 主要な借入先

会 社 名	借 入 先	借入金残高 (百万円)
当 社	株式会社三菱UFJ銀行	1,400
	株式会社池田泉州銀行	320
	株式会社みなと銀行	280
ジェイ-ワイテックス株式会社	株式会社三菱UFJ銀行	1,500
	株式会社みなと銀行	1,040
	株式会社南都銀行	400
	株式会社紀陽銀行	390

2. 会社の株式に関する事項

- (1) 発行可能株式総数 117,243,000株
(2) 発行済株式総数 51,755,478株
(3) 株主数 6,695名
(4) 大株主（上位10名）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本製鉄株式会社	11,674	24.12
日亜興産株式会社	3,575	7.39
日亜鋼業取引先持株会	2,851	5.89
株式会社池田泉州銀行	2,040	4.22
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,996	4.13
株式会社三菱UFJ銀行	1,845	3.81
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	1,776	3.67
BBH BOSTON FOR NOMURA JAPAN SMALLER CAPITALIZATION FUND 620065	1,570	3.25
日亜鋼業従業員持株会	1,274	2.63
株式会社みなと銀行	1,008	2.08

- (注) 1. 当社は自己株式（3,359,970株）を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
2. 持株比率は自己株式（3,359,970株）を控除して計算しております。

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	大 西 利 典	
常 務 取 締 役	沖 垣 佳 宏	管理本部及び関係会社本部管掌 管理本部長
取 締 役	寺 川 斉 貴	関係会社本部長
取 締 役	高 間 敏 夫	製造本部長兼設備部長
取 締 役	後藤田 英 昭	技術本部長
取 締 役	田 中 文 武	営業本部長兼加工製品販売部長
取 締 役	中 谷 吉 朗	
取 締 役	石 原 美 保	公認会計士並びに税理士 株式会社淀川製鋼所 監査役
常 勤 監 査 役	道 盛 武 彦	
監 査 役	大 西 信 彦	公認会計士並びに税理士
監 査 役	園 田 裕 人	日本製鉄株式会社 執行役員

- (注) 1. 取締役 中谷吉朗氏及び石原美保氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役 大西信彦氏及び園田裕人氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 2022年6月29日開催の第70回定時株主総会終結の時をもって、国峰淳氏は取締役を辞任いたしました。
4. 取締役 石原美保氏及び監査役 大西信彦氏は、公認会計士並びに税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
5. 当社は、株式会社東京証券取引所に対し、社外取締役である中谷吉朗氏、石原美保氏及び社外監査役である大西信彦氏を、独立役員として届け出ております。
6. 当社は、取締役及び監査役の全員を被保険者として、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約では、被保険者が負担することになる会社訴訟、第三者訴訟、株主代表訴訟等の損害が補填されることとなります。

(2) 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等

① 取締役の個人別の報酬等に係る決定方針及び決定に係る委任に関する事項

当社は、取締役の個人別の報酬等の内容に係る新たな決定方針を2022年6月29日の取締役会で決議しました。

当社の取締役の報酬は、基本報酬のみにより構成されており、基本報酬は、毎年7月より各月に支払われる金銭報酬であります。

常勤取締役については、経営責任の明確化を図るとともに、業績向上へのインセンティブに資する観点から、求められる能力及び責任に見合った水準を勘案して役位別に基準額を定め、連結経常利益及び単独当期利益を指標とする報酬テーブルに基づき、前年度の当該利益水準に応じて、基準額に対し一定の上下幅の範囲で変動させることとしております。業績指標は、経営・業務執行の結果の反映並びに株主への利益還元等の観点を踏まえ採用しています。非常勤の独立社外取締役については、その役割・責務を踏まえ、業績に連動しない固定報酬としております。

常勤及び非常勤の取締役に係る報酬額は、1991年6月27日開催の第39回定時株主総会で承認を得た限度額の範囲内で決定しております。

常勤及び非常勤の取締役の報酬に係る決定方針並びに業績指標や業績に応じた報酬テーブル等の具体的な報酬体系等については、報酬決定手続きの客観性を担保する観点から、代表取締役社長及び独立社外取締役からなる「取締役人事・報酬会議」で議論・検討した結果を踏まえ、取締役会で決定しております。

取締役の個人別の報酬額については、取締役会の決議に基づき委任を受けた代表取締役社長大西利典が、取締役会で決定された上記の方針に基づき決定しております。

代表取締役社長に委任する理由は、当社業績を踏まえ取締役の個人別の報酬額を決定するために、会社組織全体を俯瞰する立場の代表取締役が最も適しているためであります。

これらの手続きを経て取締役の個人別の報酬額が決定されていることから、取締役会はその内容が上記の方針に沿うものであると判断しております。

② 監査役の報酬等の決定方法及び方針の概要

当社の監査役の報酬は、基本報酬のみにより構成されています。監査役の基本報酬は、毎年7月より各月に支払われる金銭報酬であり、1991年6月27日開催の第39回定時株主総会で承認を得た限度額の範囲内で、監査役会において、常勤・非常勤の別、業務の分担等を勘案し、協議により決定しています。

③ 取締役及び監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役及び監査役の金銭報酬額は、1991年6月27日開催の第39回定時株主総会において、取締役の報酬総額を月額1,500万円以内、監査役の報酬総額を月額250万円以内とする旨それぞれ決議されております。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は10名、監査役の員数は3名であります。

④ 取締役及び監査役の報酬等の総額

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬等※	非金銭報酬等	
取締役	162	46	115	—	9
監査役	18	18	—	—	3
上記のうち社外役員	14	14	—	—	4

(注1) 上記報酬等の額には、当事業年度において計上した役員退職慰労引当金25百万円を含んでおります。

(注2) ※印の業績連動報酬に関する事項は、以下のとおりであります。

2022年7月から2023年3月までの業績連動報酬の決定に用いた指標は、2021年度の連結経常利益(2,620百万円)及び単独当期利益(1,596百万円)であります。

(3) 社外役員等に関する事項

① 重要な兼職先と当社との関係

区 分	氏 名	兼務先会社名	兼職の内容	関 係
社外監査役	園田 裕人	日 本 式 製 鉄 株 式 会 社	執行役員	当社は商社を通じ同社より原材料を購入しております。

② 当事業年度における主な活動状況

区 分	氏 名	主な活動状況
社外取締役	中谷 吉朗	当事業年度に開催された取締役会の全てに出席し、取締役会の意思決定の適正性に対するチェック機能や取締役の業務執行に対する監督機能等を果たす観点から助言を行っております。
	石原 美保	2022年6月29日就任以降に開催された取締役会の全てに出席し、取締役会の意思決定の適正性に対するチェック機能や取締役の業務執行に対する監督機能等を果たす観点から助言を行っております。
社外監査役	大西 信彦	当事業年度に開催された取締役会及び監査役会の全てに出席し、公認会計士及び税理士としての専門的見地から、決算のあり方並びに財務報告に関する適正性等について助言を行っております。
	園田 裕人	当事業年度に開催された取締役会及び監査役会の全てに出席し、会社経営に関する高い見識を活かし、当社経営全般について助言を行っております。

③ 責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役及び社外監査役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める最低責任限度額であります。

4. 会計監査人に関する事項

(1) 会計監査人の名称

有限責任 あずさ監査法人

(2) 会計監査人の報酬等の額

①当社 公認会計士法（昭和23年法律第103号）第2条第1項の業務に係る報酬	32百万円
②子会社 公認会計士法（昭和23年法律第103号）第2条第1項の業務に係る報酬	16百万円

- (注) 1. 上記①の報酬は、会社法に基づく監査及び金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を明確に区別することができないため、合計額を記載しております。
2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算定根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行った上で、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

(3) 非会計監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

当社監査役会は、会社法第340条第1項各号に定める監査役会による会計監査人の解任のほか、原則として、会計監査人が職務を適切に遂行することが困難と認められる場合には、「会計監査人の解任又は不再任」に関する議案を決定し、当社取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提案いたします。

(5) 責任限定契約の内容の概要

当社と会計監査人有限責任 あずさ監査法人は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める最低責任限度額であります。

5. 会社の体制及び方針に関する事項

(1) 内部統制システムの基本方針

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務並びに当社及び子会社から成る企業集団の適正を確保するための体制として、2015年5月1日付施行の改正会社法を踏まえ2015年4月27日開催の取締役会において決議した事項は、以下のとおりであります。

当社は、「日亜鋼業グループ企業理念」及び「日亜鋼業グループ社員行動指針」に基づき、企業価値の継続的な向上を図りつつ、公正かつ社会から信頼される企業の実現を目指します。また、関連法規を遵守し、財務報告の信頼性と業務の有効性・効率性を確保するため、次のとおり内部統制システムを整備し、適切に運用するとともに、その継続的改善に努めます。

1. 当社の取締役、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ① 取締役会は、「取締役会規程」等に基づき、経営上の重要事項について決定を行い、又は報告を受けます。
 - ② 業務を執行する取締役（業務執行取締役）は、取締役会における決定事項に基づき、各々の管掌業務に応じて職務執行を行い、使用人の職務執行を監督するとともに、その状況を取締役に報告します。
 - ③ 法令及び規程等を遵守し、適正に職務を行うことを、使用人に対して周知・徹底します。法令違反行為等があった場合は、「職員就業規則」に基づき適切に対処します。
 - ④ 「コンプライアンス委員会」の設置・運営を通じて、当社におけるコンプライアンスの取り組みを横断的に統括し、コンプライアンス体制の充実を図ります。
 - ⑤ 「内部通報規程」を制定し、不正行為等の早期発見と是正を図り、コンプライアンス体制を強化します。
 - ⑥ 監査室は、各部門に対して「内部監査規程」に基づき、法令及び社内規程の遵守状況並びに業務の効率性等の監査を実施し、その結果を「コンプライアンス委員会」に報告する体制を確立します。
 - ⑦ 反社会的勢力及び団体とは一切関係を持たず、毅然とした態度で対応します。
2. 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - ① 業務執行取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理につきましては、「文書取扱規程」「文書保存処分取扱細則」に従い、保存場所を定め、管理を行います。

- ② 取締役及び監査役は、「文書取扱規程」「文書保存処分取扱細則」により、常時これらの文書等を閲覧できるものとします。
3. 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- ① 「リスク管理規程」をはじめリスク管理にかかわる諸規程を制定します。
 - ② 「コンプライアンス委員会」を設置し、横断的なリスクの状況の監視並びに全社的対応を行います。各部門所管業務に付随するリスク管理は、各本部毎に統括する本部長が責任者となり執り行うこととします。
 - ③ 「安全衛生委員会」において、安全教育及び毎月2回の安全パトロール等の実施により、リスクの未然防止を図ります。
 - ④ 各部門が毎月実施する「自主点検」の結果を基に、監査室が内部統制の有効性を検証します。
 - ⑤ 財務報告の正確性と信頼性を確保するために、「財務報告に係る内部統制基本方針」に基づき、リスクの評価を行い、統制活動の実施状況を定期的に確認します。
4. 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- ① 「取締役会規程」「経営会議規程」「組織規程」「業務分掌規程」「職務権限規程」等を基に、適切かつ効率的に職務の執行が行われる体制を構築します。
 - ② 経営上の重要事項については、経営会議の審議を経て、原則月1回開催される取締役会において執行決定を行います。
 - ③ 取締役会において決定した経営計画に基づき、取締役会、月次報告会、販売会議、生産・技術会議において月次単位で業績管理を行います。
5. 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- 当社及び子会社は、「日亜鋼業グループ企業理念」及び「日亜鋼業グループ社員行動指針」に基づき、各社の事業特性を踏まえつつ、事業戦略を共有し、グループ一体となった経営を行います。
- また、当社及び子会社の取締役、使用人等が遵守すべきものとして、「コンプライアンス規程」を制定します。
- 子会社は、当社との情報の共有化等を行い、内部統制に関する施策の充実に努めるとともに、当社は、子会社の内部統制の状況を確認し、必要に応じて改善のための支援を行います。
- これに基づく具体的な体制は以下のとおりとします。

- イ. 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制
当社は、子会社における経営計画、重要な経営方針、決算等、当社の連結経営上又は子会社の経営上の重要事項について、子会社に対し報告を求めるとともに、助言等を行います。
 - ロ. 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - ① 当社は、重要な子会社における財務報告の正確性と信頼性を確保するために、「財務報告に係る内部統制基本方針」に基づき、リスクの評価を行い、統制活動の実施状況を定期的に確認します。
 - ② 当社は、子会社におけるリスク管理状況について、子会社に対し報告を求めるとともに、助言等を行います。
 - ハ. 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ① 当社は、子会社に対し効率的な職務執行のための助言等を行います。
 - ② 当社は、子会社の業績評価を行うとともに、マネジメントに関する支援を行います。
 - 二. 子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ① 当社は、子会社における法令遵守及び内部統制の整備・運用状況について、子会社に対し報告を求めるとともに、必要な支援・助言等を行います。
 - ② 子会社が実施する「自主点検」の結果を基に、当社の監査室が内部統制の有効性を検証します。
 - ③ 「安全衛生委員会」「コンプライアンス委員会」等を通じて、グループにおける横断的な取り組みを行い、情報の共有化を図ります。
6. 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びに当該使用人の取締役からの独立性に関する事項及び当該使用人に対する監査役の指示の実効性の確保に関する事項
- ① 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合については、当該職務に係る部署において、所属長は使用人を任命し、その職務の補助を行える体制を構築します。
 - ② 任命を受けた使用人は、取締役から独立し監査役の指示の下で業務を行います。

7. 当社の監査役への報告に関する体制並びに当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- ① 当社の経営会議、コンプライアンス委員会、月次報告会、販売会議、生産・技術会議に監査役が出席し、付議又は報告事項について情報を共有します。
 - ② 当社の取締役及び使用人等は、職務執行の状況、経営に重要な影響を及ぼす事実等の重要事項について、適時・適切に監査役又は監査役会に直接又は関係部門を通じて報告するとともに、内部統制システムの運用状況等の経営上の重要事項についても、監査役と情報を共有します。
 - ③ 子会社の取締役、監査役、使用人等は、子会社における職務執行の状況、経営に重要な影響を及ぼす事実等の重要事項について、適時・適切に当社の監査役又は監査役会に直接又は関係部門を通じて報告します。
 - ④ 当社は、監査役又は監査役会に上記②又は③の報告を行った者に対し、内部通報規程等に基づき、報告をしたことを理由とする不利な取扱いを禁止します。
 - ⑤ 監査室は、監査実施状況を監査役又は監査役会に報告する体制を構築します。
8. 当社の監査役職務の執行について生ずる費用等の処理に係る方針に関する事項
- 監査役が職務の執行について生ずる費用等の請求をしたときは、当該監査役職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用等の償還請求に応じます。
9. その他当社の監査役職務の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ① 監査役は、代表取締役社長と定期的に意見交換を実施します。
 - ② 監査役は、会計監査人と円滑に連携できる体制を構築します。
 - ③ 監査役は、監査室と適時・適切に情報交換を行うとともに、連携して監査を行います。

(2) 内部統制システムの運用状況の概要

当社は、内部統制システムの上記基本方針に則り経営及び業務運営を行っています。

当社は、取締役会規程に基づき原則月1回取締役会を開催し、経営方針及び経営上の重要事項等について決定を行い又は報告を受けるとともに、社外取締役による監督機能、監査役による監査機能の充実を図る体制を採ることにより、経営の公正性、透明性、効率性を確保しています。

また、任意の仕組みとして、経営会議を設置し、取締役会付議事項の事前審議のほか、経営上の重要事項等について審議・報告を行うとともに、業務執行状況の報告及び議論の場として、月次報告会、販売会議、生産・技術会議を設け、月次単位での業績管理を行っています。さらに、コンプライアンス委員会を設置し、横断的なリスクの状況の監視及び全社的対応を行うとともに、内部通報に関わる適切な体制も整備しています。これらの会議体にはすべて常勤監査役が出席しています。加えて、当社では、社長及び取締役管理本部長が、社外取締役、監査役と定期的に会合を開催し、経営全般に関わる情報交換及び認識の共有を図っています。

監査役と内部監査部門（監査室）、会計監査人との関係についても、監査役は監査室や会計監査人との間で定期的に会合を開催し情報・意見交換を行い緊密に連携する体制をとっています。監査室は、各部門の自主点検やチェックリスト等による確認結果を基に内部統制の有効性を検証するとともに、「財務報告に係る内部統制基本方針」に基づき、決算財務報告プロセス及び各部門の業務プロセス、諸規程の整備状況等を検証し、統制活動の実施状況の確認とリスク管理の評価を行い、取締役会、コンプライアンス委員会、監査役、会計監査人に報告しています。

子会社については、当社の取締役又は幹部従業員が各子会社の取締役又は監査役に就任するとともに、定期的で開催される各子会社との会議において、当社の社長、取締役、常勤監査役が出席し、当社の連結経営上又は各子会社の経営上の重要事項等について当社への報告を求めるとともに、必要な助言等を行っています。

連 結 貸 借 対 照 表

(2023年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	[37,168,659]	流 動 負 債	[12,385,048]
現金及び預金	12,588,194	支払手形及び買掛金	4,590,333
売掛金	6,476,573	電子記録債務	2,687,156
受取手形	960,652	短期借入金	1,450,000
電子記録債権	4,895,330	1年内返済予定の長期借入金	1,190,000
製品	6,741,305	未払金	836,333
仕掛品	1,436,747	未払法人税等	330,457
原材料及び貯蔵品	3,777,769	賞与引当金	321,866
その他	297,876	設備関係支払手形	172,400
貸倒引当金	△5,789	営業外電子記録債務	193,463
		その他	613,036
固 定 資 産	[33,465,049]	固 定 負 債	[6,629,422]
有形固定資産	(16,348,896)	長期借入金	3,120,000
建物及び構築物	3,697,864	繰延税金負債	1,244,409
機械装置及び運搬具	3,158,958	役員退職慰労引当金	154,926
土地	9,003,482	退職給付に係る負債	2,046,722
建設仮勘定	293,307	その他	63,365
その他	195,283	負 債 合 計	19,014,471
無形固定資産	(54,326)	純 資 産 の 部	
ソフトウェア	43,915	株 主 資 本	[45,333,514]
ソフトウェア仮勘定	7,486	資 本 金	(10,720,068)
その他	2,925	資 本 剰 余 金	(10,888,051)
投資その他の資産	(17,061,827)	利 益 剰 余 金	(24,747,439)
投資有価証券	15,409,478	自 己 株 式	(△1,022,044)
長期貸付金	3,495	その他の包括利益累計額	[2,924,122]
退職給付に係る資産	281,711	その他有価証券評価差額金	2,623,695
繰延税金資産	637	為替換算調整勘定	246,623
その他	1,401,781	退職給付に係る調整累計額	53,803
貸倒引当金	△28,820	非支配株主持分	[3,361,601]
投資損失引当金	△6,457	純 資 産 合 計	51,619,238
資 産 合 計	70,633,709	負 債 純 資 産 合 計	70,633,709

(注) 記載金額は、千円未満を切捨て表示しております。

連 結 損 益 計 算 書

(自 2022年 4 月 1 日)
(至 2023年 3 月31日)

(単位：千円)

科 目	金	額
売上高		34,075,193
売上原価		27,761,765
売上総利益		6,313,428
販売費及び一般管理費		4,490,884
営業利益		1,822,543
営業外収益		
受取利息	108,464	
受取配当金	328,203	
有価証券償還益	3,972	
受取賃貸料	28,894	
太陽光売電収入	56,500	
保険解約戻金	12,992	
為替差益	46,748	
雑収入	31,012	616,788
営業外費用		
支払利息	20,852	
持分法による投資損失	93,852	
太陽光売電原価	25,328	
雑支出	10,174	150,207
経常利益		2,289,124
特別利益		
固定資産売却益	211	211
特別損失		
固定資産除却損	11,739	
固定資産売却損	302	
解体撤去費用	9,076	
投資損失引当金繰入額	6,457	27,574
税金等調整前当期純利益		2,261,760
法人税、住民税及び事業税	682,525	
法人税等調整額	26,393	708,919
当期純利益		1,552,841
非支配株主に帰属する当期純利益		219,994
親会社株主に帰属する当期純利益		1,332,846

(注) 記載金額は、千円未満を切捨て表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(自 2022年4月1日)
(至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,720,068	10,888,051	23,898,552	△1,021,929	44,484,742
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	△483,959	-	△483,959
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	1,332,846	-	1,332,846
自己株式の取得	-	-	-	△114	△114
自己株式の処分	-	-	-	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	848,887	△114	848,772
当期末残高	10,720,068	10,888,051	24,747,439	△1,022,044	45,333,514

	その他の包括利益累計額				非支配 株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,878,834	210,400	9,807	2,099,042	3,075,251	49,659,036
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	-	-	△483,959
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	-	-	-	1,332,846
自己株式の取得	-	-	-	-	-	△114
自己株式の処分	-	-	-	-	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	744,861	36,223	43,995	825,079	286,350	1,111,429
当期変動額合計	744,861	36,223	43,995	825,079	286,350	1,960,202
当期末残高	2,623,695	246,623	53,803	2,924,122	3,361,601	51,619,238

連結注記表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 4社

ジェイ-ワイテックス株式会社、滋賀ボルト株式会社、太陽メッキ株式会社、烟台基威特鋼線製品有限公司

(2) 非連結子会社の数 4社

日亜企業株式会社、南海サービス株式会社、株式会社エムアールケー、烟台基威特金属製品有限公司

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の数 1社

TSN Wires Co., Ltd.

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の数 4社

日亜企業株式会社、南海サービス株式会社、株式会社エムアールケー、烟台基威特金属製品有限公司

(持分法を適用しない理由)

持分法を適用しない非連結子会社は、それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないためであります。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、烟台基威特鋼線製品有限公司の決算日は、12月31日であります。

連結計算書類の作成にあたっては、同日現在の計算書類を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

- ② デリバティブの評価基準及び評価方法
時価法
 - ③ 棚卸資産の評価基準及び評価方法
製品、原材料、仕掛品
移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）
貯蔵品
最終仕入原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）
- (2) 固定資産の減価償却の方法
- ① 有形固定資産（リース資産を除く）
定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。
 - ② 無形固定資産
定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用期間（5年）に基づく定額法を採用しております。
 - ③ リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。
- (3) 引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - ② 賞与引当金
従業員の賞与の支出に充てるため、支給見込額基準により計上しております。
 - ③ 役員退職慰労引当金
役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。
 - ④ 投資損失引当金
関係会社への投資に係る損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案し、必要と認められる額を計上することとしております。
- (4) 収益及び費用の計上基準
- 当社（グループ）は、商品又は製品の販売を行っており、顧客との販売契約に基づいて商品又は製品を引き渡す履行義務を負っております。
収益を認識する時点は以下のとおりであります。
（国内売上）
「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の出荷時点で収益を認識しております。

(輸出売上)

商品又は製品の引渡時点で顧客が当該商品又は製品に対する支配を獲得して充足されると判断し、収益を認識しております。

(5) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

① 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。

また、一部の連結子会社は、簡便法（期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）によっております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年～10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生年度において一括処理することとしております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

② 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、当期純利益は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

2. 会計方針の変更に関する注記

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当連結会計年度から適用し、時価算定会計基準適用指針第27－2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる連結計算書類に与える影響はありません。

3. 連結貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 40,255,651千円
2. 保証債務

下記の会社の金融機関からの借入等に対して、債務保証を行っております。

TSN Wires Co., Ltd. 870,064千円
(222,181千THB)
(10千USD)

3. 契約負債については、流動負債「その他」に計上しております。契約負債の金額は、「7. 収益認識に関する注記 (3) 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報1. 契約負債の期首残高及び期末残高」に記載しております。

4. 連結損益計算書に関する注記

1. 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、「7. 収益認識に関する注記 (1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数

普通株式 51,755,478株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	290,375千円	6円	2022年 3月31日	2022年 6月30日
2022年11月10日 取締役会	普通株式	193,583千円	4円	2022年 9月30日	2022年 12月2日
計		483,959千円			

- (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2023年6月29日 開催予定の定時株主総会	普通株式	利益剰余金	290,373千円	6円	2023年 3月31日	2023年 6月30日

6. 金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については有価証券運用規程の範囲で運用し、リスクを避けるために投機的な運用は回避しており、分散投資により安全性を保持しております。また、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

売掛金、電子記録債権に係る取引先の信用リスクは、基本的には契約時に総合商社を起用しリスク低減を図っております。また、有価証券及び投資有価証券については適時に時価の把握を行っております。

借入金の使途は運転資金（主として短期）及び設備投資資金（長期）であります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2023年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は次表には含まれておりません。また、現金及び預金、売掛金、電子記録債権、支払手形及び買掛金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額 (*)	時価 (*)	差額
(1) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	15,016,518	15,016,518	-
(2) 長期借入金	(4,310,000)	(4,301,852)	8,147

(*) 負債に計上されているものについては、() で示しております。

(注1)

市場価格のない株式等（連結貸借対照表計上額392,959千円）は「(1) 有価証券及び投資有価証券」には含まれておりません。

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価： 同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価： レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価： 重要な観察できないインプットを使用して算定した時価
時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

(単位：千円)

	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券				
株式	7,235,233	-	-	7,235,233
債券	-	7,592,624	-	7,592,624
投資信託	80,256	108,404	-	188,660

(2) 時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

(単位：千円)

	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	-	-	4,301,852	4,301,852

有価証券及び投資有価証券

活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に株式がこれに含まれます。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に債券がこれに含まれます。

長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）

これらの時価は、元金利の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル3の時価に分類しております。

7. 収益認識に関する注記

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

用途・分野	報告セグメント					その他(注)	合計
	普通線材製品	特殊線材製品	鋳螺線材製品	不動産賃貸	計		
自動車	208,089	6,020,736	-	-	6,228,825	-	6,228,825
自動車以外の製造業	676,749	942,821	-	-	1,619,571	-	1,619,571
電力通信	585,793	5,157,652	-	-	5,743,446	-	5,743,446
建築	27,222	-	6,567,681	-	6,594,904	-	6,594,904
土木	2,785,831	353,208	148,592	-	3,287,632	-	3,287,632
フェンス	4,014,450	-	-	-	4,014,450	-	4,014,450
鋼索	-	3,916,604	-	-	3,916,604	-	3,916,604
農業・水産業	871,456	286,673	-	-	1,158,130	-	1,158,130
その他	179,611	417,209	117,385	-	714,205	631,835	1,346,040
顧客との契約から生じる収益	9,349,204	17,094,906	6,833,659	-	33,277,769	631,835	33,909,605
その他の収益	-	-	-	165,588	165,588	-	165,588
外部顧客への売上高	9,349,204	17,094,906	6,833,659	165,588	33,443,358	631,835	34,075,193

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、めっき受託加工等を含んでいる。

(2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報「1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等」の「4. 会計方針に関する事項 (4) 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

(3) 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

1. 契約負債の期首残高及び期末残高

(単位：千円)

	当連結会計年度(期首) (2022年4月1日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
前受金	23,450	31,042

(注) 当連結会計年度に認識した収益のうち、期首時点の契約負債に含まれていた額は23,450千円であります。

2. 残存履行義務に配分した取引価格
当連結会計年度末時点で未充足の履行義務に配分した収益の認識が見込まれる期間は一年以内であります。

8. 1株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額 997円15銭
2. 1株当たり当期純利益 27円54銭

貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	[25,111,295]	流動負債	[5,333,939]
現金及び預金	10,963,408	支払手形	13,128
受取手形	337,205	電子記録債務	2,110,640
電子記録債権	3,426,024	買掛金	1,395,783
売掛金	3,461,919	1年内返済予定の長期借入金	580,000
製品	4,351,561	未払金	420,712
仕掛品	400,437	未払費用	150,041
原材料及び貯蔵品	1,725,644	未払法人税等	170,473
前払費用	24,651	前受金	15,512
短期貸付金	109,480	預り金	18,342
未収入金	20,915	賞与引当金	168,954
立替金	292,499	営業外電子記録債務	178,323
その他	2,554	未払消費税等	112,026
貸倒引当金	△5,007		
固定資産	[26,937,447]	固定負債	[3,388,386]
有形固定資産	(7,412,013)	長期借入金	1,540,000
建物	2,369,544	繰延税金負債	692,728
構築物	155,410	退職給付引当金	976,351
機械装置	1,242,768	役員退職慰労引当金	119,072
車両運搬具	7,708	その他	60,234
工具器具備品	128,503	負債合計	8,722,325
土地	3,449,386	純資産の部	
建設仮勘定	58,691	株主資本	[40,723,798]
無形固定資産	(33,382)	資本金	(10,720,068)
ソフトウェア	25,896	資本剰余金	(10,888,051)
ソフトウェア仮勘定	7,486	資本準備金	10,888,032
投資その他の資産	(19,492,051)	その他資本剰余金	18
投資有価証券	13,363,275	利益剰余金	(20,137,723)
関係会社株式	3,167,224	利益準備金	655,131
長期貸付金	1,448,709	その他利益剰余金	(19,482,591)
長期前払費用	27,278	別途積立金	12,159,226
退職積立保険料	1,143,015	繰越利益剰余金	7,323,365
その他	370,749	自己株式	(△1,022,044)
貸倒引当金	△28,200	評価・換算差額等	[2,602,617]
		その他有価証券評価差額金	2,602,617
資産合計	52,048,742	純資産合計	43,326,416
		負債純資産合計	52,048,742

(注) 記載金額は、千円未満を切捨て表示しております。

損 益 計 算 書

(自 2022年 4 月 1 日)
(至 2023年 3 月 31 日)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		19,087,242
売 上 原 価		15,413,170
売 上 総 利 益		3,674,072
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		2,470,864
営 業 利 益		1,203,208
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	442,899	
有 価 証 券 償 還 益	3,972	
保 険 解 約 返 戻 金	12,992	
雑 収 入	17,011	476,876
営 業 外 費 用		
支 払 利 息 出	6,736	
雑 支 出	2,854	9,591
経 常 利 益		1,670,493
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	191	191
特 別 損 失		
関 係 会 社 株 式 評 価 損	95,804	
固 定 資 産 除 却 損	3,113	
固 定 資 産 売 却 損	302	
解 体 撤 去 費 用	2,450	101,670
税 引 前 当 期 純 利 益		1,569,014
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	487,563	
法 人 税 等 調 整 額	24,160	511,723
当 期 純 利 益		1,057,290

(注) 記載金額は、千円未満を切捨て表示しております。

株主資本等変動計算書

(自 2022年 4月 1日)
(至 2023年 3月 31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	10,720,068	10,888,032	18	10,888,051
当期変動額				
剰余金の配当	-	-	-	-
当期純利益	-	-	-	-
自己株式の取得	-	-	-	-
自己株式の処分	-	-	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	10,720,068	10,888,032	18	10,888,051

	株主資本					自己株式	株主資本合計
	利益剰余金						
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計			
		別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	655,131	12,159,226	6,750,033	19,564,392	△1,021,929	40,150,581	
当期変動額							
剰余金の配当	-	-	△483,959	△483,959	-	△483,959	
当期純利益	-	-	1,057,290	1,057,290	-	1,057,290	
自己株式の取得	-	-	-	-	△114	△114	
自己株式の処分	-	-	-	-	-	-	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	
当期変動額合計	-	-	573,331	573,331	△114	573,216	
当期末残高	655,131	12,159,226	7,323,365	20,137,723	△1,022,044	40,723,798	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,859,430	1,859,430	42,010,012
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	△483,959
当期純利益	-	-	1,057,290
自己株式の取得	-	-	△114
自己株式の処分	-	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	743,187	743,187	743,187
当期変動額合計	743,187	743,187	1,316,404
当期末残高	2,602,617	2,602,617	43,326,416

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

② その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

① 製品、原材料、仕掛品

移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

② 貯蔵品

最終仕入原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支出に充てるため、支給見込額基準により計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生年度において一括処理することとしております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、商品又は製品の販売を行っており、顧客との販売契約に基づいて商品又は製品を引き渡す履行義務を負っております。収益を認識する時点は以下のとおりであります。

(国内売上)

「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の出荷時点で収益を認識しております。

5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理方法と異なっております。

2. 会計方針の変更に関する注記

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる計算書類に与える影響はありません。

3. 貸借対照表に関する注記

- | | |
|------------------------------------|---------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 18,082,512千円 |
| 2. 保証債務 | |
| 下記の会社の金融機関からの借入等に対して、債務保証を行っております。 | |
| ジェイ-ワイテックス株式会社 | 700,000千円 |
| TSN Wires Co., Ltd. | 870,064千円 |
| | (222,181千THB) |
| | (10千USD) |
| 3. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務 | |
| 短期金銭債権 | 455,949千円 |
| 長期金銭債権 | 1,460,469千円 |
| 短期金銭債務 | 384,822千円 |

4. 損益計算書に関する注記

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1. 関係会社との取引高 | |
| 営業取引による取引高 | |
| 売上高 | 148,006千円 |
| 仕入高 | 3,584,095千円 |
| その他の営業取引高 | 40,639千円 |
| 営業取引以外の取引による取引高 | |
| その他 | 114,780千円 |

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

- 当事業年度末における自己株式の種類及び株式数
- | | |
|------|------------|
| 普通株式 | 3,359,970株 |
|------|------------|

6. 収益認識に関する注記

- (1) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報
- 「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「4. 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

7. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の 主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

賞与引当金	51,666千円
未払事業税	25,658千円
製品 (横持費用)	3,273千円
退職給付引当金	298,568千円
役員退職慰労引当金	36,412千円
貸倒引当金繰入限度超過額	10,138千円
投資有価証券	39,039千円
関係会社株式	185,448千円
棚卸資産評価損	23,142千円
減損損失	57,345千円
関係会社株式評価損	29,297千円
その他	19,120千円
繰延税金資産小計	779,111千円
評価性引当額	△252,185千円
繰延税金資産合計	526,925千円
(繰延税金負債)	
その他有価証券評価差額金	△1,138,904千円
前払年金費用	△80,749千円
繰延税金負債合計	△1,219,653千円
繰延税金資産 (負債) の純額	△692,728千円

8. 関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	住所	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権の所有(被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
子会社	ジェイ・ワイテックス株式会社	大阪府貝塚市	450,000	金属製品製造業	所有直接55%	兼任1人	債務保証及び資金の貸付	債務保証(注)1	700,000	—	—
								資金の貸付(注)2	200,000	長期貸付金	1,360,000
								資金の回収(注)2	80,000		
子会社	滋賀ボルト株式会社	滋賀県甲賀市	200,000	金属製品製造業	所有直接100%	—	当社製品の生産	鋳螺製品の購入(注)3	3,291,055	買掛金	287,026
関連会社	TSN Wires Co., Ltd.	タイ国バンコク	700,000千THB	金属製品製造業	所有直接40%	兼任1人	債務保証	債務保証(注)1	870,064(222,181千THB)(10千USD)	—	—

取引条件及び取引条件の決定方法等

- (注) 1. 金融機関からの借入等に対して、債務保証を行っております。
 2. 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。
 3. 滋賀ボルト株式会社から提示された総原価を検討の上、決定しております。

9. 1株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額 895円26銭
 2. 1株当たり当期純利益 21円85銭

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄 本

独立監査人の監査報告書

2023年5月11日

日亜鋼業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人
大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 畑 孝 英

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安 田 智 則

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、日亜鋼業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日亜鋼業株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

独立監査人の監査報告書

2023年5月11日

日亜鋼業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人
大阪事務所

指定有限責任社員 公認会計士 中 畑 孝 英
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 安 田 智 則
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、日亜鋼業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第71期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査役会の監査報告書 謄 本

監 査 報 告 書

当監査役会は、2022年4月1日から2023年3月31日までの第71期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、監査計画等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。
また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）の状況を監視及び検証いたしました。
 - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。
また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2023年5月12日

日亜鋼業株式会社 監査役会

常勤監査役	道	盛	武	彦	Ⓔ
社外監査役	大	西	信	彦	Ⓔ
社外監査役	園	田	裕	人	Ⓔ

以 上

以 上

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金処分の件

期末配当に関する事項

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付け、各期の業績、配当性向及び株主資本の状況等を総合的に勘案しながら、安定的な配当を行うことを基本方針としております。

第71期の期末配当につきましては、上記方針等を踏まえ6円とし、中間配当4円と合わせ、前期に続き通期で10円といたしたいと存じます。

(1) 配当財産の種類

金銭

(2) 株主に対する配当財産の割当に関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき 6円

総額 290,373,048円

(3) 剰余金の配当が効力を生じる日

2023年6月30日

第2号議案 取締役9名選任の件

取締役全員（8名）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役8名の重任をお願いするとともに、経営体制の一層の充実・強化を図るため、取締役を1名増員し、新任取締役1名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式数
1	おおにし とし のり 大西利典 (1963年2月25日生)	1986年4月 新日本製鐵(株) (現日本製鐵(株)) 入社 2011年4月 同社薄板事業部部長 2012年10月 新日鐵住金(株) (現日本製鐵(株)) 薄板事業部薄板企画部長 2015年4月 同社薄板事業部薄板営業部長 2017年4月 同社参与 (大阪支社副支社長委嘱) 2018年4月 同社執行役員 (大阪支社副支社長委嘱) 2019年4月 日本製鐵(株)執行役員 (チタン事業部長委嘱) 2020年4月 同社執行役員 (社長付) 2020年4月 当社顧問 2020年6月 日本製鐵(株)退社 2020年6月 当社代表取締役副社長 2021年4月 当社代表取締役社長 (現在)	23,247株

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当 社の株式数
2	おき がき よし ひろ 沖 垣 佳 宏 (1962年12月26日生)	1985年4月 新日本製鐵(株) (現日本製鉄(株)) 入社 1998年7月 同社名古屋製鐵所労働部労政・人事 グループリーダー 2006年8月 同社薄板営業部薄板第二グループ マネジャー 2008年7月 同社名古屋支店薄板グループリーダー 2012年10月 新日鐵住金(株) (現日本製鐵(株)) 名古屋支店 薄板室長 2014年4月 当社顧問 (出向) 2014年6月 当社取締役管理本部長 (出向) 2017年12月 新日鐵住金(株) (現日本製鉄(株)) 退社 2018年1月 当社取締役管理本部長 2018年7月 当社取締役管理本部長兼海外事業本部長 兼総務部長 2020年3月 当社取締役管理本部長兼海外事業本部長 2021年6月 当社常務取締役管理本部長兼 海外事業本部長 2021年9月 当社常務取締役管理本部及び関係会社本部 管掌 管理本部長(現在)	38,192株
3	てら かわ なお き 寺 川 齊 貴 (1962年5月7日生)	1985年4月 神戸信用金庫入庫 1991年9月 同信用金庫退庫 1991年10月 当社入社 1998年4月 当社名古屋営業所長 2000年7月 当社経理部長 2002年12月 当社線材製品・板販売部長 2008年1月 当社営業本部長 2008年6月 当社取締役営業本部長 2012年4月 当社取締役 2012年5月 TSN Wires Co., Ltd.取締役副社長 2021年7月 当社取締役社長付 2021年9月 当社取締役関係会社本部長 (現在)	83,740株
4	たか ま とし お 高 間 敏 夫 (1964年2月5日生)	1989年4月 当社入社 2002年4月 当社研究開発部長 2005年7月 当社経理部部長 2006年10月 当社技術企画部長 2009年6月 当社取締役技術本部長兼技術企画部長 兼品質保証部長 2011年11月 当社取締役技術本部長兼技術企画部長 2014年10月 当社取締役技術本部長 2020年6月 当社取締役製造本部長兼設備部長 (現在)	69,602株

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当 社の株式数
5	ごとうだひであき 後藤田英昭 (1964年7月1日生)	1989年4月 新日本製鉄(株) (現日本製鉄(株)) 入社 2000年11月 同社君津製鐵所製鋼部鋼片管理 グループリーダー 2002年10月 同社君津製鐵所製鋼部製鋼技術 グループリーダー兼鋼片管理 グループリーダー 2003年10月 同社君津製鐵所製鋼部第一製鋼工場長 2006年2月 同社君津製鐵所製鋼部鋼片管理 グループリーダー 2010年4月 同社君津製鐵所線材工場線材管理 グループリーダー 2016年4月 新日鐵住金(株) (現日本製鉄(株)) 君津製鐵所線材部長 2020年3月 日本製鉄(株)退社 2020年4月 当社顧問 2020年6月 当社取締役技術本部長兼品質保証部長 2022年10月 当社取締役技術本部長 (現在)	11,676株
6	たなかふみたけ 田中文武 (1968年8月27日生)	1991年4月 当社入社 2012年4月 当社名古屋営業所長 2015年10月 当社普通線材製品販売部長 2020年4月 当社営業本部副本部長兼加工製品販売部長 2021年6月 当社取締役営業本部長兼加工製品販売部長 (現在)	22,703株
7	【新任】 きどくにひろ 木戸邦博 (1969年7月19日生)	1994年4月 当社入社 2011年1月 当社本社第二工場長 2014年10月 当社生産技術部長 2017年6月 当社技術企画部長兼海外事業本部部長 2020年4月 当社技術本部副本部長兼生産技術部長兼 海外事業本部部長 2021年9月 当社技術本部副本部長兼生産技術部長 (現在)	20,403株
8	【社外役員】 【独立役員】 なかたによしろう 中谷吉朗 (1960年2月5日生)	1983年4月 (株)三和銀行 (現(株)三菱UFJ銀行) 入行 2004年5月 (株)UFJ銀行 (現(株)三菱UFJ銀行) 大阪法人営業第4部長 2006年5月 (株)三菱東京UFJ銀行 (現(株)三菱UFJ銀行) 今里支社長 2008年5月 同行阿倍野橋支社長 2012年3月 同行退行 2012年4月 朝日ウッドテック(株)管理部長 2012年7月 同社取締役管理部長 2019年7月 同社内部監査室長 2020年3月 同社退社 2020年6月 当社取締役 (現在)	一株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式数
9	【社外役員】 【独立役員】 いしはら みほ 石原美保 (1969年2月17日生)	1996年10月 朝日監査法人（現有限責任あずさ監査法人）入社 2002年1月 公認会計士登録 2006年1月 朝日監査法人（現有限責任あずさ監査法人）退社 2006年2月 (株)プロティビティ・ジャパン（現プロティビティ合同会社）入社 2009年3月 同社退社 2009年4月 EYアドバイザリー(株)（現EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株)）入社 2010年4月 同社退社 2010年5月 石原公認会計士事務所（現石原公認会計士・税理士事務所）代表（現在） 2010年5月 ひびき監査法人 入社 2010年12月 税理士登録 2014年7月 ひびき監査法人 社員 2019年6月 (株)淀川製鋼所 監査役（現在） 2019年7月 ひびき監査法人 代表社員（現在） 2022年6月 当社取締役（現在）	一株

- (注) 1. 各候補者と当社との間には特別な利害関係はありません。
2. 中谷吉朗氏及び石原美保氏は、社外取締役候補者であります。
3. 中谷吉朗氏は、他企業の役員に就任し経営者としての豊富な経験を有しております。同氏が当社取締役会の意思決定の適正性に対するチェック機能や取締役の業務執行に対する監督機能を適切に果たし、当社のコーポレートガバナンスをさらに強化していただけるものと判断し、今般社外取締役として選任をお願いするものであります。なお、同氏の当社社外取締役在任期間は、本総会終結の時をもって3年となります。
4. 石原美保氏は、公認会計士並びに税理士としての豊富な経験に加え、内部統制及びリスクマネジメントに関するコンサルティング業務に従事されていた経験を有しております。同氏が当社取締役会の意思決定の適正性に対するチェック機能や取締役の業務執行に対する監督機能を適切に果たし、当社のコーポレートガバナンスをさらに強化していただけるものと判断し、今般社外取締役として選任をお願いするものであります。なお、同氏の当社社外取締役在任期間は、本総会終結の時をもって1年となります。
5. 当社は、中谷吉朗氏及び石原美保氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。両氏の選任が承認された場合、当社は引き続き両氏との間で当該責任限定契約を締結する予定であり、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める最低責任限度額であります。
6. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、当該保険契約により被保険者が負担することになる会社訴訟、第三者訴訟、株主代表訴訟等の損害を補填することとしております。各候補者の選任が承認された場合、各候補者は当該保険契約の被保険者となり、また、当社は任期途中に当該保険契約を同じ内容で更新する予定であります。
7. 当社は、株式会社東京証券取引所に対し、中谷吉朗氏及び石原美保氏を独立役員として届け出ており、両氏の選任が承認された場合、当社は引き続き両氏を独立役員とする予定であります。

第3号議案 補欠監査役1名選任の件

本総会開始の時をもって、2022年6月29日開催の第70回定時株主総会において選任された補欠監査役 北畠昭二氏の選任の効力が失効しますので、改めて法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

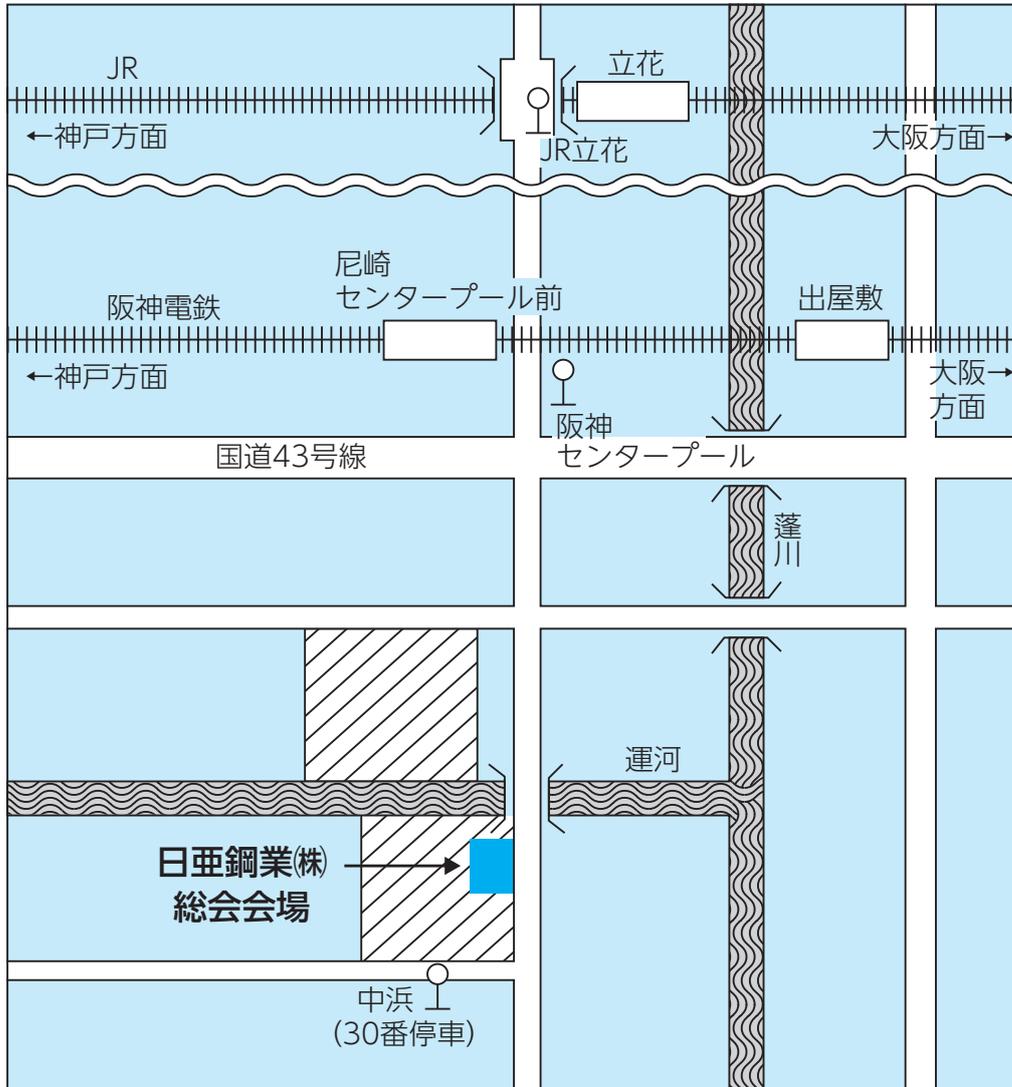
補欠監査役候補者は、次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴、地位及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式数
【社外役員】 きた ばたけしょう じ 北 畠 昭 二 (1947年2月14日生)	1969年4月 大阪国税局入局 1995年7月 同局課税第一部国税訟務官 1999年7月 同局調査第二部統括国税調査官 2002年7月 長田税務署長 2003年7月 大阪国税局調査第一部調査審理課長 2004年7月 明石税務署長 2006年7月 大阪国税局退官 2006年8月 税理士登録 2006年8月 北畠税理士事務所開設（現在） 2007年7月 当社顧問税理士（現在）	一株

- (注) 1. 北畠昭二氏と当社との間には特別な利害関係はありません。
2. 北畠昭二氏は、補欠の社外監査役候補者であります。
3. 当社は、北畠昭二氏が代表を務める北畠税理士事務所との間で、顧問税理士契約を締結しておりますが、当事業年度におけるその取引高は連結販売費及び一般管理費の0.02%程度であり、株主と利益相反を生じるおそれのない範囲の額であります。社外監査役としての独立性やガバナンス体制に何ら影響を及ぼすものではないと判断しております。
4. 北畠昭二氏は、企業経営に関与された経験はありませんが、長年国税局の要職を歴任し、また、税理士としての専門的な知識及び実務経験を有しています。監査役に就任された場合、そうした豊富な知見を当社の監査業務に活かしていただけるものと判断し、補欠の社外監査役として選任をお願いするものであります。
5. 北畠昭二氏が社外監査役に就任した場合、当社は同氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であり、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める最低責任限度額であります。
6. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、当該保険契約により被保険者が負担することになる会社訴訟、第三者訴訟、株主代表訴訟等の損害を補填することとしております。北畠昭二氏が社外監査役に就任した場合、当該保険契約の被保険者となり、また、当社は任期途中に当該保険契約を同じ内容で更新する予定であります。

以 上

会場ご案内図



※阪神電鉄尼崎センタープール前駅下車

- 阪神センタープールバス停より阪神バス30番

(中浜方面行き) 中浜バス停下車すぐ

- 徒歩約15分

※JR立花駅下車 (陸橋へ出て南行き方面)

- JR立花バス停より阪神バス30番

(中浜方面行き) 中浜バス停下車すぐ